

グラジオラス

———— 発病・加害時期
 ===== 発病・加害最盛期

作型・病害虫名	月												
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
露地				●~ 球根植									
冷蔵抑制				×				×					
首腐病									————	————	————	————	
ボトリチス									————	————	————	————	
アザミウマ									————	————	————	————	
ネダニ									————	————	————	————	

球根腐敗病（乾腐病）

留意事項

- 1 球根貯蔵中の多湿条件で発生しやすい。
- 2 ホーマイ水和剤を使用する場合、薬液の温度はなるべく10℃以下を避ける。

防除方法

- 1 健全な球根を使用する。
- 2 連作を避ける。
- 3 植付け前または、貯蔵前に下記の薬剤を施用する。
 - ・ [ホーマイ水和剤](#) <M3> <1>
 【200倍 30分間球根浸漬 植付前又は貯蔵前/1回】または
 【球根重量の1.0% 球根粉衣 植付前又は貯蔵前/1回】
- 4 土壌消毒を行う。（XⅢ土壌消毒 参照）
 - ・ [バスアミド微粒剤](#)、[ガスタード微粒剤](#) 劇 <->
 【花き類・観葉植物 20~30kg/10a は種または植付前/1回】

首腐病

留意事項

- 1 病原菌は土壌害虫や作業等による傷口から侵入することが多い。

防除方法

- 1 健全な球根を使用する。
- 2 土壌の過湿を避ける。
- 3 連作はせず、他作物との輪作を行う。
- 4 被害株はまわりの土とともに、ほ場外へ持ち出し処分する。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

5 土壌消毒を行う。(XⅢ土壌消毒 参照)

・ [バスアミド微粒剤](#)、[ガスタード微粒剤](#) 劇 <—>

【花き類・観葉植物 20~30kg/10a は種または植付前/1回】

ボトリチス病

留意事項

- 1 球根貯蔵中の高温多湿条件で発生しやすい。
- 2 自家栽培球を使用する場合は、球根堀上げ後の乾燥を十分に行う。

防除方法

- 1 健全な球根を使用する。
 - 2 連作はせず、他作物との輪作を行う。
 - 3 施肥基準を守りチッソ過多にならないようにする。
 - 4 排水を良好にする。
 - 5 発病株は早期に掘り取り処分する。
 - 6 初発時に重点を置いて下記の薬剤を散布する。
- ・ [ポリオキシシンAL水溶剤](#) <19> 【2500倍 発病初期/8回】

アザミウマ類

留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 ほ場内外の雑草を除去する。
 - 2 植付時に下記の薬剤を施用する。
- ・ [オルトラン水和剤](#) <1B> 【1000倍 10分間球根浸漬 植付時/1回】
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
- ・ [ディアナSC](#) <5>
【花き類・観葉植物(除りんどう) 2500~5000倍 発生初期/2回】
- ・ [アフーム乳剤](#) <6> 【花き類・観葉植物 2000倍 発生初期/5回】
- ・ [モスピラン顆粒水溶剤](#) 劇 <4A>
【花き類・観葉植物(除ストック、りんどう) 2000倍 発生初期/5回】
- ・ [スカウトフロアブル](#) 劇 <3A> 【2000倍 -/5回】

ネダニ類

留意事項

- 1 ネダニ類の寄生が疑われる球根(萎縮、腐敗等)は、植付けしない。また、植付け

注1: 同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2: 異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

後に気づいた場合（不発芽、生育遅延等）は掘り取って処分する。

2 前年に多発したほ場、前作がねぎ、チューリップなどのほ場では植付けを避ける。

防除方法

1 連作を避ける。

2 pHが5～6の酸性土壌では発生しやすいため、土壌pHを矯正する。

3 健全な球根を使用する。

4 収穫残渣は、ほ場外へ持ち出し処分する。

5 植付前に下記の薬剤を施用する。

・ [ネマキック粒剤](#) <1B>

【花き類・観葉植物(除きく) 20kg/10a 全面土壌混和

植付前または定植前/1回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。